

謝 辞

被表彰者代表

志 村 勇



皆さんこんにちは。ただいま、表彰いただきました志村でございます。僭越ではございますが、ご指名でありますので、2点ほどお話しして、被表彰者代表の挨拶とさせていただきます。

まず1点目は、今日のこの喜びを誰と分かち合おうかなと今、表彰状を頂きながら思いました。社会人として、サラリーマンとしては本来、会社の上司なり、同僚、あるいは後輩に対するお礼を言わないといけないのですが、やはり正直なところ、この表彰を頂いて、私自身は家族と祝いたいなという気持ちで一杯です。

と言いますのは、実は、私は奈良に住んでおりまして、執行部の活動が午前中にありますと、朝5時ぐらいに起き、5時半には家を出てこないとい知財協の東京本部に間に合いません。冬場はまだ月が出ているときに家を出ていました。もちろん、タクシーやバスは全然ございませんので、家族に車で遠い駅まで送ってもらうことになります。帰りは、東京で21時を過ぎますと家までたどり着かないことが多く、奈良の遠い途中の駅で電車が停まってぽつんと降ろされてしまうと、その時も家族に電話して、遠い駅まで迎えに来てもらうことになります。

今日はゆっくり奈良の家を出て来ましたが、朝、出がけに家族から「おめでとう」という言葉をかけてもらい、それが心にずしっと来るものがございました。

今日は多くの方が表彰を受けておられますが、やはり私と同じように家族といろいろ喜びを分かち合いたいといひますか、内心はそのような気持ちでいらっしゃる方が非常に多いのではないかなと推察しております。

次に第2点目としまして、私は、知財協にお世話になったのは、実は4年間しかございません。表彰内容の「長年にわたり」ということであると、非常に短い期間でこのような晴れがましい表彰を受けることになりまして、甚だ恐縮しているところでございます。

ただ、その4年間の中で私自身は、産業構造審議会の特許制度小委員会で、職務発明制度や実用新案の法律改正等、いろいろな法律改正に携わることができました。また、知財研や他の外部の委員会にもいろいろ出させていただいて、私としては非常に貴重な経験をさせていただいたような気がします。

思い起こしますと、当時、常務理事に推薦を受けまして、非常に迷いがある中で、私の上司に言われた言葉が、『知財部門というのは会社の組織から見ると非常に小さい、だからいろいろな人と議論して能力を高めるに当たっても、会社の中でそういうチャンスはなかなかない。知財協に行っている議論するほうが、おれがおまえを直接教育するより何倍も、あるいは何十倍にも人材育成になる』。

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ある意味では私の上司は私の人材育成を拒否したわけですが、その中で知財協に来させて頂きまして、私としては非常に優秀な方が沢山いらっしゃることを実感した日々でした。

例えば、具体的な例を挙げると、先ほどの特許制度小委員会でいろいろ課題が挙げたことに対して、課題に対する該当の委員会の委員をお呼びして、いろいろお話を聞く機会がございました。私の方から「この課題に対する回答はどうしたらいいですかね」と質問をしますと、「これはこうこうこういうふうに発言してください」と委員会の委員の方に言われました。あまりにも理路整然としたすばらしい回答だったので、この人は立派だなと思う一方で、その場で「これは、あなたがもともと考えていたことなんですか」とお聞きしましたら、「いやいや私は以前は違ったことを考えていましたが、委員会で議論していく中で、この結論になりました」と言われて、さすが知財協だな、一定の能力がある方達が集まって議論すると、こんなすばらしい回答ができるんだと、びっくりした次第です。

他には、研修委員会、今は人材育成委員会になっていますが、人材育成委員会にも、結構、出席させていただきました。委員の皆さんが熱心に議論している内容に耳を澄ませていると、本来ならば、ここに来られている会員代表の部下の方たちのための人材育成の検討をしているはずなんですけれども、一番人材育成になっているのは、この人材育成委員会に来られている方たちじゃないのかなという感じがしました。

兎も角、知財協の各委員会は、集まることでいろいろな議論ができて、その中ですばらしい発想が生まれてきているんじゃないのかなという気がしております。

そのような意味では、先ほどの上司の言葉ではないですが、『かわいい子には旅をさせろ』という格言もございますように、会員代表の皆様の中には、能力は高いけれど自分の手に負えなくなった部下等いろいろな人を、ぜひ知財協にお送り頂いて、そこで一層の人材育成をやって頂いたらいいのではないのかなと思っております。その事を、今日、会員代表の皆様をお願いしまして、被表彰者代表の挨拶に代えさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。